

目的 1869年に出版されたThe American Woman's Homeは当時のアメリカの女性に向けて書かれた本であるが、この中で提案された住宅設計については先の学会(第33回日本家政学会九州支部会)で報告した。この住宅は、著者のC.E. Beecherが長年かかって取り組んできた問題の一つである女性と住宅の関係を最もよく建築的に解決したものであるといわれ、家事作業の組織化や機械設備の導入など当時の新しい技術や装置を備えたものであった。本報では更に、同著の中の住いに関する章Home Decorationを中心に取りあげ、Beecherの室内装飾に対する考え方と当時の社会的背景を明らかにしてみようとするものである。

方法 Catherine E. Beecher, Harriet Beecher Stowe共著The American Woman's Homeの第6章Home Decorationの分析と考察。考察にあたっての参考文献は Sherrill Whiton著「Interior Design and Decorations」、S.ギーティオン著「機械化の文化史」、ドロレス・ハイデン著「家事大革命 本間長世編新大陸の女性たち」、Mark Girouard著「Life in the English Country House」他。

結果 ①住いの美的要素は、一般的には経済的理由からなおざりにされがちだが、室内装飾品の計画的購入の大切さと創意工夫による効果を事例をあげて示している。②色彩調節は美的原理の一つであるとしているが、その方法における科学的な教示はなされていない。③室内装飾の具体的な例示はパーラーのみであり、他の部屋には及んでいないことから、家族の集まる部屋を整えることに関心が高かったと思われる。④室内における観葉植物の美的効果を推賞して、その育て方、室内装飾の仕方を具体的に示している。⑤美しく装飾された室内は、子供の美への感性を育てる上でも大切であるとしている。